FIF REPORT 2024

FIF
Future Innovation Forum

FIF REPORT 2024

コンテンツ

01 代表メッセージ

02 特別鼎談

株式会社日本総合研究所 理事長　翁 百合様
シブサワ・アンド・カンパニー株式会社 代表取締役　渋澤 健様を迎えて

04 理念と活動

スペシャルコンテンツ
06 子どもたちの「その後」を調査

10 2024活動ハイライト

ITコンサルタントと考えるわたしの未来
Future×Zeekstar Handball meeting 2024
パリ・サン=ジェルマン ハンドボールジャパンツアー2024 親善交流イベント
物流の最前線 2024
ITコンサルタントによる出張授業
東日本大震災から10年を超えて
ブラインドサッカー®・バーチャル体験 2023-2024
宇宙エレベーターロボット競技会

地域創生セミナー 2024 未来を共に「創る」
FUTURE INSIGHT SEMINAR 不確実な時代に求められるサステナビリティ経営
イノベーションワークショップ 2024 企業価値を高めるためのDX戦略

18 F I Fの活動とSDGs

20 プレスクリッピング

協力企業・団体の名称、登壇者の所属・役職はイベント開催時のものです

代表メッセージ

フューチャー イノベーション フォーラム（F I F）は、「イノベーションで人と社会を豊かに」というコンセプトのもと、人びとが組織の枠組みを越えて協力し、広く社会の発展に貢献することを目指して、2006年1月に設立しました。経営層や次世代リーダーの皆様がイノベーションの活路を見出すべく世界の潮流や共通のビジネス課題を議論する場や、子どもたちが自ら課題を見つけ解決していくためのキャリア教育やコンピューティング教育の場を提供してきました。活動に参画いただいた方々はのべ8,400名を超え、総貢献時間はおよそ12万8千時間となりました。設立以来、着実に活動を積み重ねてこられましたのも、ひとえに皆様のご厚情の賜物と心より御礼申し上げます。

昨今、生成AIをはじめとするテクノロジーの進化は、目まぐるしいスピードで世の中を不可逆的に変化させています。技術革新が飛躍的に進むなか、世界の競争は先端技術をいかに早く社会実装できるかが焦点となっています。わが国の競争力を高めるためには、私たち一人ひとりが既成概念にとらわれず豊かな発想でチャレンジを続け、自らが「未来の創り手」であり続けなければなりません。

私たちF I Fも組織を越えたさらなる協業を行い、オープンイノベーティブな場を提供することで、社会に変革を起こすための土壌づくりに取り組んでまいります。日本が非連続的に成長していくためには、挑戦をよしとし、失敗を許容する社会にすることも必要です。特に志を持つ若い人たちには、この混迷の時代をチャンスと捉え、リスクを恐れず新しい道を開拓してほしいと願っています。

また、ESG、SDGsといった「サステナビリティ」も世界の重要アジェンダです。活力ある持続可能な社会の実現に向け、これからも会員の皆様をはじめ、趣旨に賛同してくださる企業、各種団体の方々とともに、一人ひとりが輝く社会を目指して活動してまいりますので、引き続きご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

フューチャー イノベーション フォーラム代表
フューチャー株式会社 代表取締役会長兼社長 グループCEO

特別鼎談

FIF代表による毎年恒例の特別鼎談。今回は株式会社日本総合研究所 理事長 翁百合様、
シブサワ・アンド・カンパニー株式会社 代表取締役 渋澤健様を迎え、
日本社会の成長と一人ひとりが活躍するために必要なことや、若い世代に伝えたいことを伺いました。

成長戦略と新しい資本主義

金丸　日米で政権交代が起こり、世の中が大きく動いています。内閣の「新しい資本主義実現会議」で構成員を務められているお二人はどのように見ていますか。

翁　私も含め、成長戦略としては良い方向にきたという感覚を持っているメンバーが多いと思います。円滑な労働移動やそのためのリスキリングなど、労働市場の活性化を促す取組みも進んでいます。会議メンバーには起業家の方々もいて、成長戦略のど真ん中にスタートアップがあるという意識が広がっているのも良いことだと感じています。

金丸　スタートアップと大企業は分けて論じられがちですが、大企業に勤めている人が起業してもよいわけでシームレスだと思います。私自身も会社員から起業しましたから。

渋澤　スタートアップとは本来、社会課題を解決するイノベーションであることがメディアや世の中にもっと伝わってほしいですね。私は以前から環境や社会課題という外部性の解決を包摂し、「コスト」ではなく新たな「価値」に転換していく、インクルーシブな資本主義こそ「新しい資本主義」だと考えています。

翁　社会課題の解決と企業価値の向上を両立させることが、新しい資本主義の底流にありますよね。

渋澤　まさに「論語と算盤」です。総合経済政策のなかでも財務的リターンに加えて、こうした課題解決がもたらす効果を目的としたインパクト投資は、海外でも注目されています。日本はインパクト投資と人的資本において世界から周回遅れのように言われていますが、決して遅れてはいないと感じます。

翁　海外投資家の日本への評価も高まっています。2023年3月に東証が「資本コストや株価を意識した経営」の実現を要請し、初めて資本収益性と資本コストの関係をPBR（株価純資産倍率）1倍以上という数字で示したことは、大きな意義があると思います。単に基準をクリアするのではなく、人的資本や研究開発への投資によって中長期的に企業価値向上を目指してほしいというメッセージが強く示されています。

社会課題につながる価値創造とは

渋澤　今や当たり前に存在する銀行や製紙、保険、ガスなどの会社も、いわば150年ほど前に誕生したスタートアップです。日本社会を新しい時代に導くためのサービスや製品を生み出すことがイノベーションになるという本質は今も同じです。

金丸　そうですね。スタートアップは突然現れたものではなく、社会のニーズや課題解決から生まれてきたという歴史を振り返ってみても、まだまだ多くの分野で起業できるチャンスがあります。

翁　日本においてはディープテック分野のスケールアップが重要だと思います。海外の大学は最初から起業を見据えて研究を行っていますが、日本では優れた研究が事業につながっていません。もっとアントレプレナーシップのある先生方が増えてほしいですね。

金丸　私は大学改革にも携わっていますが、理系分野では「技術屋は技術だけ磨けばいい」という思い込みから抜け出せていません。世界では技術屋がCTOではなくCEOとして活躍しており、GAFAの創業者は20代そこらで起業しています。特に若い人たちには失敗を恐れずに勝負してほしい。自ら先頭に立ち、良いサービスや技術を社会に実装する気概が必要です。

渋澤　若者が挑戦するためには、「自ら問いを立てる力」も必要です。日本の教育は良い大学、良い会社をゴールとしたWhatとHowの学びに留まっていますが、社会課題を見つけ、解決するための「Whyをたてる力」を養う教育が今こそ不可欠ではないでしょうか。

翁　スタートアップが育つには規制改革も重要ですね。

金丸　オールドプレーヤーとニュープレーヤー、誰もがフェアな競争ができるように環境を整備すべきだと思います。でなければ、新しい知恵を出す人たちの活躍の場を潰してしまいます。

渋澤　米国ではトランプ氏が政権を担うことになり、ますます不確実性が高まっていますが、民主党が負けたのは、ESGの“S（社会）”の部分で取り残されたと感じている人たちの大きな怒りがあったことも一因です。格差問題を政府に任せていたらどうなるかを目の当たりにし、民間に何ができるかを考えると、企業が価値を創造し、雇用を創出し、しっかり賃金を払うことが大事だということに行き着きます。

翁　私は日銀時代に京都支店で産業調査を担当していたことがあります。京都には、半導体や医療など独自の技術によって世界シェアを誇る企業が数多くあります。GAFA的な強さではない、日本的な強さを持った企業が、さらに付加価値を高め、日本各地で育つ可能性があると思います。

金丸　生成AIなどの新しい技術も、悪用を防ぐ最低限のルールは必要ですが、“教養”の一部に留めずに積極的に実装してほしいですね。技術を社会課題の抽出や能力向上に活用することで、企業や個人のポテンシャルを引き出し、付加価値を生み出す好循環につなげられるはずです。

渋澤　生産性や効率が上がることで生まれる時間と空間の余裕をどのように価値創造につなげ、クリエイティビティを高めていくかも大事ですね。

新しい時代の価値観で、豊かさを見つける

翁　新しい資本主義実現会議のみならず税制調査会などの政府の委員会でも、委員の女性比率が4割を超え、年齢や専門分野も多様性が高まっています。いろいろな意見が議論のテーブルに上がるようになり、社会が変わりつつあることを実感しています。若い人たちには無限の可能性があります。自分のポテンシャルを信じて挑戦を続けることで、可能性を広げながら「これだ」と思えるものを集中的に学んでプロフェッショナルを目指してほしいと思います。

渋澤　人口減少が続く日本では、若い人たちは自身がマイノリティのように感じると思います。しかし、若い人たちは生まれたときから当たり前にインターネットが常時つながり、AIを使えば言語の問題もありません。視点を変えれば、日本に暮らしながらも世界とつながっているマジョリティなのです。大企業からスタートアップまで様々なかたちで世界を豊かにすることに努め、これから発展していく国々に「日本が自国の発展に伴走してくれた」という意識が広がれば、人口が減少しても存在感を示すことができるでしょう。Made in Japanではなく、世界の人びとともに何かを作っていくMade with Japanの意識を持って、新しい時代の価値観、新しいモデルを創り出し、豊かな生活を送ってほしいと願っています。

（文中敬称略）

理念と活動

イノベーションで人と社会を豊かに

フューチャー イノベーション フォーラム（ＦＩＦ）は、「イノベーションで人と社会を豊かに」という理念のもと、企業が互いに協力しながら広く社会の発展に貢献し、変革をもたらしていくことを目指して2006年1月に設立した社会貢献団体です。
フューチャー株式会社 代表取締役会長兼社長 グループCEO 金丸恭文が代表を務め、日本を代表する経営者や知識人など13名のアドバイザリーボードメンバーに助言をいただきながら、フューチャー株式会社（本社：東京都品川区）が運営しています。設立以来、様々な企業の次世代リーダーが相互研鑽する場や、未来を担う子どもたちが将来の夢を描くきっかけとなる場を提供しています。多くの企業をはじめ、学校や各種団体と協力・連携し、組織の枠組みを越えて広くつながるオープンイノベーティブな活動を行っています。また、様々な取組みをつうじて国際社会共通の目標、SDGs達成への貢献を目指しています。

アドバイザリーボードミーティングにて（2024年6月）

アドバイザリーボードメンバー

明石 勝也	聖マリアンナ医科大学 理事長
片野坂 真哉	ANAホールディングス株式会社 取締役会長
金丸 恭文	フューチャー株式会社 代表取締役会長兼社長 グループCEO
小林 琢磨	株式会社ポーラ 代表取締役社長
髙島 宏平	オイシックス・ラ・大地株式会社 代表取締役社長
田中 仁	株式会社ジンズホールディングス 代表取締役CEO
中西 勝則	株式会社しずおかフィナンシャルグループ 代表取締役会長
新浪 剛史	サントリーホールディングス株式会社 代表取締役社長
増田 宗昭	カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社 取締役会長
松尾 豊	東京大学大学院 工学系研究科 教授 技術経営戦略学専攻 専攻長
三木谷 浩史	楽天グループ株式会社 代表取締役会長兼社長
米良 はるか	READYFOR株式会社 創業者兼代表取締役CEO
柳川 範之	東京大学大学院 経済学研究科・経済学部 教授

2025年1月1日現在 敬称略 氏名50音順

コンセプト

ＦＩＦには、子どもたちを対象とした「Kids Innovation Lab」と、社会人を対象とした「Member Companies Lab」の2つの活動があります。

Kids Innovation Lab

Member Companies Lab

未来を担う子どもたちの夢・可能性を広げる

社会課題解決型のキャリア教育（ソーシャル）やコンピューティング教育プログラムを企画・運営しています。子どもたちが体験をつうじて社会に関心を持ち、最先端のテクノロジーに触れることで、社会をデザインするためのイノベーティブな力を養う場です。専門家と直接コミュニケーションが取れるオリジナルプログラムを提供し、未来を担う子どもたちの夢・可能性を広げることを目指しています。

次世代リーダーが相互研鑽し日本の未来に活力をもたらす

企業の経営層や次世代リーダーに向けて「業種・業界の枠組みを越えた相互研鑽」をコンセプトに、セミナーやワークショップの場を提供しています。「DX」「地域創生」「組織・人材戦略」「サステナビリティ経営」「デジタル通貨」など、世界の時流を捉えたテーマを取り上げ、第一線で活躍するゲストを交え、テクノロジーを活用した変革の実現に向けて議論を重ねています。

Activities

活動 19年

開催イベント数 216回

イベント参加者数 8,416人

活動への貢献時間 127,939時間

※2024年12月末時点

Special Content

子どもたちの「その後」を調査

100%が参加してよかったと回答！

「Kids Innovation Lab」プログラムにおいて、参加後5年以上経過した方を対象にアンケートを行いました。
調査の結果、100%の方が参加してよかった、89.2%の方が今でも心に残っていると回答しました。

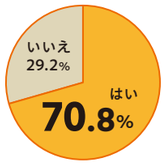
参加者の声

- 高校3年生：私の考え方、生き方の糧になっています。
- 社会人：ITへの興味を広げてくださり、感謝しかありません。
- 保護者：子どもにチャレンジする勇気を与えてくれたと思います。

Q1 振り返って、参加してよかったと感じていますか？

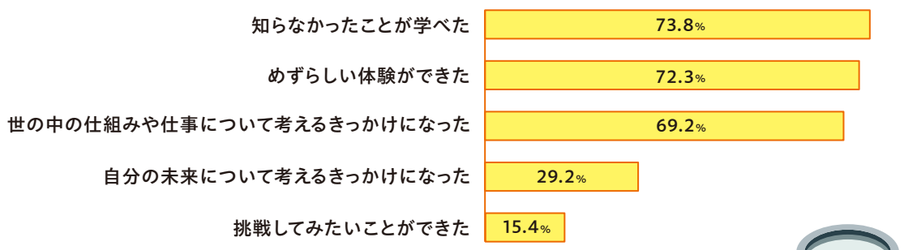
Q2 今でも心に残っていることはありますか？

Q3 将来の夢や仕事に関する考え方や思いに変化はありましたか？



Q4 進路や勉強したいことへの考え方や思いに変化はありましたか？

Q5 参加して得られたものとして当てはまる内容にチェックを入れてください。（複数選択可）



調査概要
<調査方法>インターネット、郵送　<調査対象>2015～2018年度開催イベントの参加者153名／当時小学5年生～高校3年生（調査終了時高校2年生～社会人）　<実施期間>2024年3月15日～4月10日　<回答者数>65名（回答率42.5%）
<対象イベント>セキュリティの最前線（ALSOK）・くらしづくりの最前線（カインズ）・物流の最前線（佐川急便）・ソフトドリンクの最前線（ポッカサッポロフード&ビバレッジ、サッポロビール）・新聞報道の最前線（毎日新聞）・スポーツアイデアソン（一般社団法人超人スポーツ協会、NPO法人D-SHiPS32、ライブリッツ、ワイ・ディ・シー）・スポーツハッカソン（NPO法人D-SHiPS32、一般財団法人UNITED SPORTS FOUNDATION、コードキャンプ）

Interview
参加者・保護者インタビュー

ＦＩＦでは、子どもたちの体験を1日の活動で終わらせることなく、新たな社会体験へ発展させていくことを目指しています。参加した方々に当時の思い出や現在の様子をインタビューしました。

※年齢は2024年12月時点のものです。

きょうだいで「物流の最前線」に参加

守田 真悟さん（23才）／守田 圭吾さん（19才）／守田 麻加さん（母）

真悟さんと圭吾さんは、佐川急便での職業体験「物流の最前線」にきょうだいで参加。最先端の配送センターを見学し、宅配の裏側を学びました。参加のきっかけは最初に体験した姉のすすめでした。現在はアメリカ在住です。

左：真悟さん　右：圭吾さん

栗和田会長（SGホールディングス）との名刺交換

社会の中で活用されている技術を目の前で見ることができました

真悟さん

当時の僕は、算数や理科は好きでしたが社会科にはあまり興味が持てませんでした。イベントで大規模配送センターを訪れ、荷物が自動で仕分けされていくのを見て驚きました。将来何をしたいのか考える前に、社会の中で活用されている技術を近くで目にすることができたのはとてもよかったと思っています。現在は大学院でAIの研究をしています。

イベントを機にロボティクス部に入部役立つサービスをつくりたいです

圭吾さん

ロボットを見ることができ、とにかく楽しかったのを覚えています。物流の大切さがわかりました。その経験から高校ではロボティクス部に入りました。現在は大学でコンピューターサイエンスを専攻し、プログラミングコンテストや、アメリカの子どもたちが楽しく日本語を学ぶためのゲームづくりに取り組んでいます。将来は人の役に立つサービスをつくりたいです。

電子サインの体験

楽しみながら新しい視点を得られました企業の皆様に感謝しています

母 麻加さん

最初に参加した長女が配送センターのことを楽しそうに話すので、下の二人はうらやましがっていました。「弟たちも絶対に参加させてね！」と念押しするほどでしたから、3人とも経験させてもらい感謝しています。アメリカでは小さな子どもが職業体験させてもらえる機会はほとんどありません。子どもたちにとって貴重な機会でした。今後も続けてくださるとうれしいです。

Interview
参加者・保護者インタビュー

「物流の最前線」に参加

岩下 政也さん(18才)

現在大学生の政也さんは、2016年に佐川急便での職業体験「物流の最前線」に参加しました。当時のアンケートでは「ドライバーが荷物とまごころを運んでいることがわかった」とコメント。保管していたイベントのしおりや名刺を持ってフューチャーのオフィスを訪ねてくれました。

栗和田会長に質問する政也さん

初めて知ることばかり！
今の小学生にも体験してほしいです

自分で荷物を送ってみるという企画があったのですが、ベルトコンベアで見送った荷物が実際に自宅に届いた時は感動しました。イベントの中で栗和田会長（SGホールディングス）にみんなで質問させてもらい、お客様との信頼関係を本当に大切にしていることが伝わってきたのが心に残っています。今は大学でマーケティングなどを学んでいます。将来は「おもてなし」に関わる仕事がしたいと考えています。

長男が「セキュリティの最前線」「スポーツハッカソン」に参加

田邉 美恵子さん(母)

長男の龍之介さん（21才）は小学6年生の時にALSOKで未来のセキュリティを学ぶ「セキュリティの最前線」に参加。耳にかけるウェアラブル端末やドローンの操作を体験しました。さらに中学生の時には「スポーツハッカソン」に参加し、ARプログラミングを学びました。

上：ドローンの操作体験　下：プログラミング実習

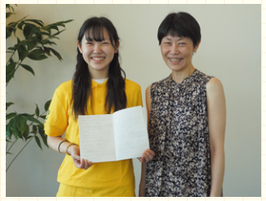
好きなことや得意なことを
将来につなげるヒントを得られました

もともとデジタルに興味を持っていた息子でしたが、当時は大人になってからのことを思い描くのは難しい面もありました。イベントをつうじて社会を身近な存在に感じたことで、好きなことや得意なことをどうやって将来につなげていくか、ヒントを得られたのではないかと思います。子どもと未来について話し合うきっかけになりました。現在は大学でセキュリティプログラミングのゼミを選択し、生成AIを扱う企業でインターンをしています。

Interview
参加者・保護者インタビュー

「ソフトドリンクの最前線」に参加

宇津木 芽生さん(19才)／宇津木 悦子さん(母)



芽生さんは小学5年生の時に「ソフトドリンクの最前線」に参加しました。サッポロビールバイオ研究開発部（現：原料開発研究所）とポッカサッポロフード&ビバレッジ群馬工場を見学し、ドリンクづくりを体験。記念に持ち帰ったポロシャツとノートを見ながら当時を振り返りました。

背景や思いを知り
商品を見る目が変わりました

芽生さん

今でも写真を見ると楽しかったことを思い出します。髙島専務（ポッカサッポロフード&ビバレッジ・当時）から直接、ものづくりに向き合ううえでの信念や工夫、原材料へのこだわりをうかがい、商品を見る目が変わりました。企業理念はネットで調べることもできますが、実際に体験しながら学んだことで心に残る思い出になりましたし「もっと世の中の仕組みを知りたい、関わる人の思いを聞きたい」と考えるきっかけになりました。今は大学で政治と経済を学んでいます。将来は社会課題を解決する仕事がしたいと考えています。

好奇心を後押しする
成功体験を授けてもらいました

母 悦子さん

同じ世代のいろいろな地域から来た子たちと社会科見学に行けるという企画に惹かれ申し込みました。帰ってきた時の表情がきらきらしていて、専務が「生きとし生けるもののために仕事をしている」とおっしゃっていたと話してくれたのを今も覚えています。小さい頃から知的好奇心が旺盛な子でしたが、その火が消えずに続いているのは楽しい経験をさせてもらえたからだと思います。ひとりで知らないところに行っても分かり合える人がいるという成功体験を授けてもらったことに感謝しています。

左：参加当時の写真（2016）。ポロシャツは今も大切に保管しています。

未来を担う子どもたちに
社会の仕組みや技術に親しむ体験を提供する

FIFは、今後も企業や団体の皆様との連携をつうじて子どもたちを対象としたキャリア教育プログラムやコンピューティング教育プログラムを提供していきます。

プログラムは開催年度ごとに異なります。現在参加者を募集しているイベントについては、FIF公式サイトでご確認ください。

2024活動ハイライト

Kids Innovation Lab

ＦＩＦでは幅広い年齢の子どもたちに向けて、自ら課題を見つけ解決していくためのキャリア教育や、コンピューティング教育の機会を提供しています。2024年は子どもたち一人ひとりの可能性を広げることを目指し、プロハンドボール選手と交流するイベントや職業体験イベント、理系に興味のある女子中高生を対象としたキャリア教育イベントを開催しました。

https://www.fif.jp/kidsyouth/

ITコンサルタントと考えるわたしの未来

11月9日開催

「身近な理系のロールモデル」として女性社員が中高生と交流

2023年から理系の進路や職業に関心を持つ女子中高生を応援する取組みをスタート。今年は「身近な理系のロールモデル」を増やし将来の選択肢を広げてもらうことを目的にオフィスツアー&交流会「ITコンサルタントと考えるわたしの未来」を初開催しました。当日はＦＩＦの運営企業であるフューチャー株式会社をはじめ、そのグループ会社で活躍する女性コンサルタント4人が「大学の選び方」や「将来就きたい職業に向けてできること」などをテーマに、自身のキャリアや進路選択のターニングポイントを紹介しました。プログラムの後半には、2グループに分かれて仕事に関する質問や女性の働き方、学校生活についての意見交換を行い参加者同士の交流を深めました。

参加者の声

- 学校でも家でも、文理選択や将来の話をされることが多く、悩んでいました。でも、このイベントで、大学や職場のことなどが想像しやすくなりました。
- 普段あまり聞くことができない進路や大学生活について話を聞くことで、将来の選択肢の一つに触れることができたと思います。
- 今回の参加をつうじて、理系でも様々な職業があり、これから自分でいろいろな職業を調べて職業体験イベントなどに参加してみようと思うきっかけになりました。
- オフィスツアーで会社の雰囲気がわかり楽しかったです。ITコンサルタントの仕事は理系でないといけないと思っていましたが、文系出身の方もいると聞き驚きました。

Future×Zeekstar Handball meeting 2024

7月20日開催 ONLINE

ハンドボールについて、聞こう！話そう！！

「ハンドボールを知って、もっと楽しんでもらう」ことを目的に、ジークスタースポーツエンターテインメント株式会社と共催でオンラインイベントを初開催しました。ジークスター東京の現役選手と監督やマネージャーが登壇し、公式マスコットのジスターもかけつけました。ハンドボールのルールや競技の魅力、日本と世界でのプレーや指導方法の違い、今後開催される大会の見どころを紹介したほか、配信中に参加者から寄せられた質問に回答し、盛り上がった1時間となりました。これからも、現役アスリートたちとの交流をつうじて、スポーツに親しむイベントを開催していきます。

ジークスター東京
公式マスコット
ジスター

参加者の声

- ルール説明が分かりやすかったです。また、ポジション別の役割を聞くことができ、勉強になりました。もっともっとハンドボールを好きになりました。
- 試合で緊張しない方法について質問し、選手が答えてくれました。日々の練習を頑張って自信を持ちたいと思います。明日、大会なので頑張ります！！

パリ・サン=ジェルマン ハンドボールジャパンツアー2024 親善交流イベント

8月18日開催

関東第一高等学校ハンドボール部員と交流

昨年に続き、スポーツをつうじた交流を目的に、世界最高峰のハンドボールチーム「パリ・サン=ジェルマン ハンドボール（PSG）」と、日本の高校生が交流するイベントを開催しました。今回は関東第一高校ハンドボール部の生徒36人が参加し、ポジションごとに分かれてPSG選手が手本を示しながら生徒にアドバイスをしました。記念品交換セレモニーでは、生徒からPSGの選手一人ひとりに向けたメッセージ入りの手づくりのうちわなどが贈られ、PSGからは選手全員のサインが入った色紙が贈呈されました。

参加者の声

- 動画でしか見たことがないスター選手から直接指導を受けることができました。ほかのポジションとの連携が重要であることを教わり、活かそうと思いました。
- PSGの選手からのシュートを止められる気がしませんでした。これが世界レベルかと思いました。選手と触れ合えて、とてもよい経験になりました。

2024活動ハイライト

Kids Innovation Lab

物流の最前線 2024

10月19日開催

「持続可能な社会」をつくる物流の仕組みを学ぼう！

2007年から開催している「物流の最前線」に、今回は小学5･6年生15人が参加しました。普段は見ることができない大型物流センター「Xフロンティア」を訪れた参加者は、佐川急便の仕事について学んだあと、たくさんの荷物を自動で仕分ける大型ソーターや商品をピッキング･配送するロボットなどの最新設備を見学しました。トラックの乗車体験では、環境負荷の少ない電気自動車や、冷蔵･冷凍車などに乗り、車両の運転席からの景色を楽しみました。将来、配達手段として利用が見込まれるドローンの飛行見学では、間近を飛ぶ機体に大きな歓声が上がりました。最後の質問会では「災害があったときはどうしますか？」「ドローンはどういう場所で使ったことがありますか？」といった質問があがりました。

協力：佐川急便株式会社、SGムービング株式会社、佐川グローバルロジスティクス株式会社

参加者の声

普段、荷物がどうやって家に届くのかが分かってよかったです。将来ドローンが荷物を運ぶかもしれないと思うと、とても楽しみになりました！

思った以上にXフロンティアが近未来的で、自分で充電してくれるロボットや、荷物の仕分けをするロボットも使われていたことにびっくりしました。

ITコンサルタントによる出張授業（品川区立大井第一小学校）

第1回 1月19日　第2回 2月2日開催

「デジタル技術×〇〇」で世の中の壁をなくそう！

デジタル技術を活用して実現する「人と人との壁を取り払い、自然体で関わり合える社会」について、小学5･6年生の皆さんと一緒に考えました。第1回では、デジタル技術と何を結びつけると皆が目指す社会に近付けるかを話し合い、第2回はそのアイデアをグループごとにプレゼンテーション。「デジタル技術×友達づくり」「デジタル技術×日本の文化」など、障がいのある人や異文化のバックグラウンドを持つ人とスムーズに楽しく交流することができる仕組みなどを発表しました。

東日本大震災から10年を超えて

3月1日開催

現地（石巻市）からの報告会 ～復興支援活動を振り返って

2011年3月に発生した東日本大震災の直後から2014年にかけて、FIFが事務局となり様々なボランティア活動を行ってきました。
多岐にわたる活動のなかで「子どもたちが安心して遊べる場づくり」にともに取り組んだNPO法人にじいろクレヨンの柴田滋紀代表を招き、2024年3月に振り返りイベントを開催しました。支援活動がどのような変化をもたらしたかを紹介いただき、点の活動が十数年の時を経て線の活動となりました。

参加者の声

ささやかなことでも被災した方々の力になれた、意味がある活動だったと再認識できました。久しぶりに当時の仲間と再会でき、現在の石巻の様子を聞けてとてもよかったです。

協力イベント

ブラインドサッカー®・バーチャル体験 2023-2024

2023年12月23日～2024年1月12日 ▶ はこだてみらい館 ギャラリースペース
2024年12月1日 ▶ フクシ･エンタープライズ墨田フィールド

FIFの運営会社であるフューチャーは、パラスポーツの魅力をより多くの人に知ってもらおうと、視覚障がい者向けの5人制サッカー「ブラインドサッカー」をバーチャル･リアリティ（VR）で体験できるアプリを提供しています。2024年は「Future Sports EXPO 2023-2024」「LIGA.i ブラインドサッカートップリーグ2024」において多くの方に体験していただきました。

宇宙エレベーターロボット競技会

主催：宇宙エレベーターロボット競技会実行委員会

11月23日 ▶ 神奈川大学 みなとみらいキャンパス

STEAM教育、プログラミング教育の先駆的な取組みである「宇宙エレベーターロボット競技会」の活動に2024年も協力しました。第11回を数える全国大会には、地方予選を勝ち抜いた35チーム108名が参加。効率的かつ正確にミッションを果たせるように、工夫を凝らした自作のロボットで競い合い、会場は終始熱気に包まれていました。

2024活動ハイライト

Member Companies Lab

ＦＩＦでは企業の経営層や次世代リーダーが集い、業種の枠組みを越えて議論する相互研鑽の場を提供しています。2024年はサステナビリティ経営や地域創生に関するウェビナーを実施したほか、イノベーションワークショップでは企業価値を高めるためのDX戦略をテーマに議論しました。

https://www.fif.jp/member/

地域創生セミナー 2024
未来を共に「創る」～魅力的な地域であり続けるために～

10月1日開催 ONLINE

2023年に次いで第3弾となる地域創生セミナーを開催しました。今回は『未来を共に「創る」～魅力的な地域であり続けるために～』をテーマに、地域の未来価値を高めるために必要なエッセンスをお話しいただきました。
パネルディスカッションでは、地域活性化に向けて関係者が力を合わせて活動を継続していくうえで必要なことを参加者とともに議論しました。

講演1

佐渡の循環を促す持続可能な酒造り

尾畑 留美子
「真野鶴」五代目蔵元／尾畑酒造株式会社 専務取締役

講演2

空港を拠点にした地域創生
～空港を超えた空港の役割

岡田 信一郎
株式会社南紀白浜エアポート 代表取締役社長

登壇者によるパネルディスカッション

地域が中核となる価値創造とは

パネリスト　**尾畑 留美子／岡田 信一郎**
モデレーター　**山岡 浩巳** フューチャー株式会社 取締役

セミナー当日の様子

地域の魅力を“醸す”

尾畑 留美子

東京の大学を卒業してから映画業界で7年ほど働き、1995年に父の病気をきっかけに佐渡に戻り実家の尾畑酒造「真野鶴」五代目蔵元を継ぎました。東京出身の夫とともに佐渡の個性を活かしたお酒造りに取り組んでいます。
地域の魅力をさらに醸成していくプロジェクトとして始めたのが、廃校となる小学校の旧校舎を活用した「学校蔵」です。佐渡市から借り受け、尾畑酒造の二つ目の酒蔵として再生しました。酒造りを学ぶ場としても活用し、国内外から長期滞在で訪れます。
また佐渡在住者や全国各地の方々を集め、佐渡から島国ニッポンの未来を考える特別授業を毎年6月に開催しています。10代から70代まで、熱量にあふれる多世代の人たちが混ざって学ぶことで、日本の未来を変えていく力になればと思っています。

“富の移転”ではなく“知の移転”

岡田 信一郎

私は2019年4月の民営化を機に経営に手を挙げ「空港型地域創生」をコンセプトに地域活性化に取り組んでいます。安全安心な空港運営を行うだけでなく、地域に人を呼び込む「旅行事業」や、地域への投資を呼び込む活動にも力を入れています。
紀伊半島は「熊野古道」をはじめ、非常に魅力的な観光資源がある地域です。行政区域を越えて観光資源を磨き上げ、国内外から交流人口を呼び込み、新たな産業需要を創出することができれば、人口減少などの地域課題の解決にもつながります。またインフラ企業を中心に空港と接続する二次交通の整備にも取り組んでいます。「富の移転」ではなく「知の移転」をすべく、人が人を呼び、投資が投資を呼び循環していく仕組みづくりに尽力しています。

周囲を巻き込み、地域の循環の一員を増やす

山岡 浩巳

お二人から、関係者を巻き込んで地域活性化を継続的な活動にしていくうえで必要なことをお話しいただきました。尾畑様からは「楽しんで夢中で取り組むこと。その様子を見て面白そうだと思ってくれる人たちが増えていった」、岡田様からは「パッションで実行していくこと。誰もやったことがない面白いアイデアは周囲のやる気をかきたてる」という言葉をいただきました。
周囲を巻き込みながら化学反応を起こしていくこと、そして巻き込まれた周囲の人々がネットワークの中で役割を見つけ、地域の循環の一員になっていくことが大切であるということが大変よくわかりました。

参加者の声

何から着手すればいいのか悩んでいましたが、難しいことからやろうとせず、課題の芯を外していない簡単なものから行えばよいと気づかされました。

始める人が熱意をもってやることで、それを見た周りが自然と参加し、関係者を広げてスケールを大きくすることが成功の秘訣なのだと感じました。

2024活動ハイライト

Member Companies Lab

FUTURE INSIGHT SEMINAR
不確実な時代に求められるサステナビリティ経営 ～脱炭素移行に伴うリスクをビジネスチャンスに～

7月10日開催 ONLINE

サステナビリティ経営をテーマにウェビナーを開催しました。気候変動問題の克服に向けて、企業にはESG（環境、社会、ガバナンス）を考慮した経済活動が求められています。これらは企業価値を中長期的に高める上でも不可欠です。
学識者やサステナビリティ経営を実践している企業の方をお招きし、気候変動領域におけるグローバルな基準設定や人材育成の重要性、企業のサステナビリティへの貢献とビジネスの共創について議論しました。

SESSION 1

サステナビリティ経営と事業成長を両立するには？ ～欧州の潮流と日本企業の事例から

登壇者

富田 基史
一般財団法人電力中央研究所
サステナブルシステム研究本部
気象・流体科学研究部門
兼 社会経済研究所 主任研究員

玉木 伸之
横河電機株式会社
未来共創イニシアチブ
プロジェクトリーダー

モデレーター
山岡 浩巳
フューチャー株式会社
取締役 最高サステナビリティ責任者

SESSION 2

フューチャーグループの取組紹介
価値共創型モデルとフューチャーグループの取組み

登壇者

大江 隆徳
株式会社ワイ・ディ・シー
（現フューチャーアーティザン株式会社）
ESG経営共創ビジネスユニット
ビジネスユニット長 事業統括

参加者の声

利益を出すために、消費者や他の事業者との連携を図り、お互いにフィードバックしていくという考え方がとても面白く興味深く感じました。

ステークホルダー全員が納得のいく、短期的・長期的に見たコストを出していくことが大切だと感じました。

イノベーションワークショップ 2024
企業価値を高めるためのDX戦略

第1回 11月28日開催

業種や業界を越えて交流を深め自己研鑽する場として、2007年からイノベーションワークショップを実施しています。2024年度は「企業価値を高めるためのDX戦略」をテーマに、第1回は伊藤忠グループ全体のデジタル化推進およびサイバーセキュリティ対策をリードする浦上善一郎様に登壇いただき、経営に貢献するデータ活用施策をテーマに議論を深めました。

講演

伊藤忠商事の企業価値向上を支えるデータ活用推進について

浦上 善一郎
伊藤忠商事株式会社 准執行役員 IT・デジタル戦略部長

「ビジネス起点」「収益性重視」「内製化」の方針に基づき、データ活用の成果を業務効率化から業務高度化へ、そして稼ぐ力へと進化させるためのエッセンスを紹介していただきました。

当社役員によるミニトーク

データ利活用による効果

谷口 友彦
フューチャーアーキテクト株式会社 代表取締役社長

ＦＩＦの運営会社であるフューチャーグループの谷口より、データの利活用が経営数値にもたらすインパクトをお話ししました。

グループディスカッション

経営に貢献するデータ活用施策

7つのテーブルに分かれ、自社の取組みと現状の課題、取り入れられそうな点、参考になったポイントを話し合いました。データ分析や内製化のあり方においては、個人情報の取り扱いを含めたガバナンス面の整理や人材育成も重要だという意見があがりました。

参加者の声

データ分析や支援を行う組織の内製化は非常に先進的かつ戦略的な取組みであり、データ活用事例とともに紹介いただき、大変興味深い内容でした。

DX内製化の事例として示唆に富む内容でした。異なる業種の企業と交流することができ、日ごろの仕事では得られない刺激を得られました。

ＦＩＦの活動とSDGs

SDGs（持続可能な開発目標）への貢献を目指して

ＦＩＦは設立以来、築いてきたネットワークやノウハウを活かし、様々な取組みをつうじて
国際社会共通の目標、SDGs達成への貢献を目指しています。
17の目標のなかでも次の5つのゴールとそれに紐づくターゲットに向けて活動を推進しています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

TARGET 9.5

産業と技術革新の基盤をつくろう

産業セクターにおける科学研究を促進し、技術能力を向上させる

9 産業と技術革新の基盤をつくろう

Member Companies Labでは、様々な業種・業界の経営者、次世代リーダーが世界の潮流や最新技術の動向を知り、共通のビジネス課題を議論するオープンイノベーションの場を設けています。Kids Innovation Labでは、子どもたちが早くから自身の将来を考え、社会をデザインする力を養う場を提供するべく、経営層との対話や最新技術に触れる独自のプログラムを実施しています。

TARGET 4.4

質の高い教育をみんなに

働く技能を備えた若者と成人の割合を増やす

4 質の高い教育をみんなに

これからの時代は、いま以上に自ら課題を見つけ、仲間と協力して解決策を見出す力が求められます。Kids Innovation Labでは、未就学児から大学生まで、幅広い年代に向けて様々なプログラムを実施しています。2024年は、高校のハンドボール部の生徒たちが、世界で活躍するパリ・サン=ジェルマン ハンドボールの選手たちから実技指導を受ける国際親善イベントを開催しました。

TARGET 10.2

人や国の不平等をなくそう

すべての人の能力を強化し、社会・経済・政治への関わりを促進する

10 人や国の不平等をなくそう

Kids Innovation Labではフューチャー株式会社の社員の有志が開発したVRアプリを使って、2016年よりITを活用したパラスポーツ体験の場を提供しています。VRブラインドサッカー®のバーチャル体験会や小学校での出張授業、イベントへの出展協力を行うなど、共生社会の実現に向けて考え、学ぶ機会を創出しています。

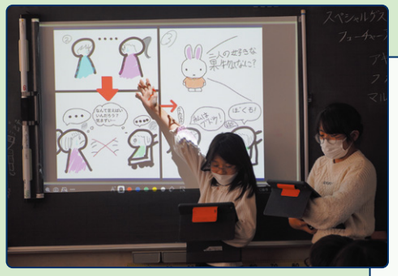
TARGET 5.5

ジェンダー平等を実現しよう

**政治、経済、公共分野での意思決定において、
女性の参画と平等なリーダーシップの機会を確保する**

5 ジェンダー平等を実現しよう

日本経済の持続的な成長のために、女性の理系人材育成は重要な社会課題であると捉え、理系の進路や職業に関心を持つ女子学生の学びを応援する取組みを行っています。2023年は企業や大学研究室の理系分野で活躍する女性を講師に招いたオンラインセミナーを、2024年は「身近な理系のロールモデル」として理系出身のITコンサルタントの女性と交流するイベントを実施しました。



TARGET 17.17

パートナーシップで目標を達成しよう

効果的な公的・官民・市民社会のパートナーシップを推進する

17 パートナーシップで目標を達成しよう

ＦＩＦの活動は企業、行政、学校など様々なステークホルダーの協力が不可欠です。Member Companies Labでは、産官学民の連携の在り方や地域創生について、有識者を交えて議論するセミナーを開催しています。Kids Innovation Labでは、ITコンサルタントが小学校でワークショップの講師を務めるなど、子どもたちにとって学びと体験の場となるプログラムを作り上げています。

プレスクリッピング

メディアでイベントが紹介されました

ハンドボール「ジークスター東京」の選手と交流 7月20日にオンラインイベント

共同通信社　2024年5月10日

URL https://www.kyodo.co.jp/news/2024-05-10_3856544/

時にマジメに、時に笑顔で選手、監督が回答

月刊スポーツイベント・ハンドボール　2024年9月号
（2024年9月20日発行）

スターが高校生を親身に指導

月刊スポーツイベント・ハンドボール　2024年10月号
（2024年10月20日発行）

地域創生セミナー『未来を共に「創る」～魅力的な地域であり続けるために～』

SDGs fan　2024年9月3日

URL https://sdgs.fan/sdgs/article/detail/20240830201903.html

小学5･6年生が荷物搬送AGVや自動倉庫を見学 社会貢献団体FIFと佐川が「物流の最前線」開催

月刊ロジスティクス・ビジネス（LOGI-BIZ）　2024年12月号
（2024年12月1日発行）

公式サイト

Facebook、YouTubeでも随時情報発信中！

https://www.fif.jp

運営

FUTURE

お問い合わせ　フューチャー イノベーション フォーラム
事務局：〒141-0032　東京都品川区大崎1-2-2 アートヴィレッジ大崎セントラルタワー（フューチャー株式会社内）
TEL：03-5740-5817　E-mail：forum@future.co.jp

発行：2025年3月